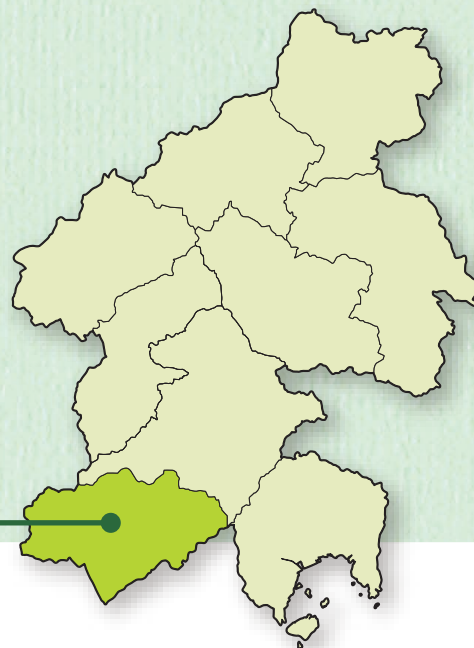


5 黒瀬地域



1 地域の概要

黒瀬地域は、東広島市の南部に位置しており、古墳時代の保田古墳群^{やすだ}や鎌倉時代の懸仏^{かけぼとけ}を蔵する門前神社があるなど、数多くの貴重な文化財が存在するほか、江戸時代に農地の拡大が図られ、数多くのため池が造られるなど、黒瀬川沿いに古くから農業地帯が広がっています。北を西条地域、南を呉市、西を熊野町・広島市と隣接、近接し、南北には、高規格道路である東広島・呉自動車道と国道375号、東西には、主要地方道矢野安浦線があるなど、道路交通網が整っています。

中黒瀬地区周辺は、生活利便性の高い施設が密集し拠点性が高い地域となっており、丘陵部の住宅団地と平野部に広がる集落や田園風景が特徴的な地域となっています。また、産業団地に企業が集積しているなど、多くのものづくり企業等が立地しています。さらには、広島国際大学をはじめ、県立黒瀬高等学校、武田中学校・高等学校が立地するなど、文教機能も整った地域となっています。

また、旧黒瀬町においては、総合計画の将来都市像に「人と自然がきらめく 交流タウン」を掲げ、「自然と共生した美しいまち」「交流を促進する活気あふれるまち」「しあわせ育む福祉の充実したまち」を基本理念にまちづくりを進めてきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

平成12(2000)年の25,351人をピークとして、人口は緩やかな減少傾向が続き、現在は約23,300人となっています。東西南北の道路網の整備により、呉市、広島市等の近隣市町の各方面への交通利便性が高まり、住宅団地や産業団地の造成が進み、住宅や企業の集積が進んできたほか、住民が主体となって生活交通を運行している地域でもあります。健康・医療・福祉系の総合大学である広島国際大学や県立黒瀬高等学校が立地し、福祉に関連した地域連携が行われており、市民の交流と健康増進、健康寿命の延伸など健康・福祉のまちづくりに向けて、市と広島国際大学が持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指すTown&Gown構想^{※1}の取組みが始まっているほか、地域の代表的な農産品等としては、牛肉や日本酒が挙げられ、近年ではブドウの生産者が増加しています。また、黒瀬ダムや黒瀬川をはじめとする雄大な自然など、本市でも有数の特徴的な機能が備わった地域となっています。

一方で、小中学校における児童・生徒数の減少、郊外型住宅団地の高齢化、新たな産業用地の不足、公共交通の維持確保などが課題となっています。また、農業地帯に市街化が進んだため、住宅団地や集落が広範囲に分布し、地域の中心となる拠点が低密度で機能集積が不十分となっています。加えて、市民協働のまちづくりを進める上での地域活動拠点施設の充実も課題となっています。

※1 Town&Gown構想: タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

交通利便性や地域資源である大学の
機能を活かした健康・福祉と交流のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、Town&Gown構想の推進のほか大学や高等学校の人材育成機能や知見を活かした健康のまちづくりの取組みに加えて、持続可能な公共交通を他分野との「共創」により確保するほか、都市計画道路や交通結節点の整備による域外からのアクセス性を活用し、東広島・呉自動車道IC周辺の産業立地を誘導するとともに、従来の田園環境と調和した地域を目指す必要があります。また、黒瀬川水系の河川改修などによる治水対策の強化に加えて、地元住民、新規流入世代にとって魅力的な雇用の創出や起業の支援、魅力ある居住環境の整備、子育て・教育環境の充実など、既存の強みを活かした施策を組み立てていく必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 大学との連携促進とともに、企業におけるAI※2/IoT※3の導入支援等により、産業イノベーションの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 呉市や広島都市圏との近接性と優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 肉牛を中核とした畜産業の振興と耕畜連携による生産性の向上を推進します。
- 地域産品の情報発信と販路拡大による広域的な交流機会の創出を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、農泊などの体験型観光や、黒瀬ふれあい夏まつりをはじめ、地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



黒瀬ふれあい夏まつり

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 中黒瀬地区において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の集積により、拠点機能の充実とともに、良好な住環境の形成を図ります。
- 移住・定住の促進に向けた、土地利用規制のあり方について検討するとともに、既存住宅団地の活性化、下水道等の基盤整備などにより、居住環境の向上を図ります。
- 空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。
- 地域活動の活性化のため、ICT※4の有効活用なども含め、地域活動拠点施設の充実に取り組みます。

安全で円滑な生活交通の充実

- 黒瀬さくらバスの運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる都市計画道路等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実に図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



黒瀬さくらバス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 ICT:Information and Communication Technologyの略。情報通信技術のこと。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 保田古墳群や門前神社の懸仏など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



市民ミュージカル

活力づくり

項目

施策の方向性

学術研究機能の発揮による都市活力の創出

- 広島国際大学とのTown&Gown構想※5を推進し、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行うとともに、産学官民連携によるまちづくりを進めます。

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 青少年・学生の力を活かし、交流・連携事業を推進します。
- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 県立黒瀬高等学校・武田高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。

都市成長基盤の強化・充実

- 東広島・呉自動車道との近接性を活かし、IC周辺等での産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道375号等の整備を促進するなど、交通ネットワークの充実を図ります。
- 交通結節点を整備するほか、多様な関係者との「共創」により、利便性及び持続性の高い公共交通の構築を図ります。



広島国際大学



東広島・呉自動車道(大多田IC)

※5 Town&Gown構想:タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 猿田川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 都市型災害（浸水対策等）への対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 広島国際大学と連携した健康維持や介護予防を推進します。
- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



黒瀬川



さくらウォーク



後期基本計画
第2章 地域別計画

